

2009 年度秋期

# 情報リテラシ演習

(学科合同クラス)

(担当: 角皆)

# 「情報リテラシ演習」

本授業は

単なるコンピュータ実習を

目的とするものではない!!

「情報リテラシ」＝「情報の読み書き能力」

「情報(データ)」を

**受信・処理・創出・発信**

する総合的かつ基礎的な素養

本授業では、本学の全学共通の必修科目として、  
「情報」を扱う際の基本的な考え方を身に付け、  
それを活用できるようになることを目標とする

「情報 (データ)」とは、必ずしも

コンピュータで扱う電子的なものに限らない

問: 何故「情報 (データ)」を電子化するのか？

「書類を作るのに

一々ワープロ使うより手で書いた方が

面倒でないし覚えることもないし早いよ」

「情報 (データ)」とは、必ずしも

コンピュータで扱う電子的なものに限らない

問: 何故「情報 (データ)」を電子化するのか？

「書類を作るのに

一々ワープロ使うより手で書いた方が  
面倒でないし覚えることもないし早いよ」

問: 何故「情報 (データ)」を電子化するのか？

コンピュータをより便利に使うための手掛かり

これを本授業を通じて考えていこう!!

- 活きた (再利用可能な) データは価値が高い
- 死んだ (再利用不可な) データは価値が低い

「使い回しの心」

問: 何故「情報 (データ)」を電子化するのか？

コンピュータをより便利に使うための手掛かり

これを本授業を通じて考えていこう!!

- 活きた (再利用可能な) データは価値が高い
- 死んだ (再利用不可な) データは価値が低い

「使い回しの心」

「情報(データ)」を電子化するには  
手間が掛かる(こともある)

電子化によって得られるメリットに見合うか？

- 電子化するメリットの方が大きい場合
- 電子化するメリットの方が小さい場合

場合によっては電子化しないことも  
「情報リテラシ」のうち



- 電子化によって期待するメリットは？

→ 「電子化のための電子化」  
であってはならない

- 電子化の方法によって  
得られるメリットが変わることがある

→ どのような方法を取るべきか

電子化することを学び、

電子化しないことを学び、

電子化もすることを学ぶ。

(或る格言のもじり)

まずは電子化の手段を知ろう

(電子化することを学ぶ)



PC やアプリケーションソフトの  
基本的な扱い方 (操作) から始めよう

何が出来るのか？ どうすれば出来るのか？

## 面倒くさがろう!!

- 「こんなことは機械にやらせれば」
- 「こんなことは自動的に出来ないかな」

そういうことは

- 大抵みんなが思っている
- 大抵誰かがやっている

→ 大抵 (考えれば / 調べれば) 出来る

みなさん、log on は出来ていますか？

log off は出来ますか？

アンケート配布

授業時課題・レポート提出にも使うので、

まずは電子メールの送受信から

“**Active! Mail**” を使う

## “Active! Mail” の使い方

起動:

[Active! Mail] をダブルクリック

→ ユーザ ID・パスワードを入れてログイン

終了:

必ず「ログアウト」で終了

(最初に終了の方法を覚えよう)

## “Active! Mail” の使い方

では、  
再度起動してメール送受信の実習へ移ろう

メールを読む: [メール受信] タブをクリック

メールを書く: [メール作成] タブをクリック



## メールの作成・送信

### メールの宛先:

- 宛先 (**To**): 主宛先
- **Cc**: 副宛先 (**Carbon Copy**)  
(読んでいてね・送ったよ・お知らせしときます)  
→ 自分宛に送っておくと良い
- **Bcc**: これも副宛先だが後で説明

## メールの作成・送信

件名 (Subject): メールの題名

→ (本来は) 本文の内容を反映したものにする

→ 但し、現状では文化の違いあり

最近、携帯電話などを中心に、  
ここで名乗る（「         です」など）  
ことが多いようだ。

本来は差出人のメールアドレス (**From**) は  
メールを見れば判るので、  
ここで名乗る意味はない。

近年はいたづら・迷惑メール防止の為に、  
見ただけでは誰だか判らないような  
メールアドレスにすることが増えている。

→ そのために発生した習慣か  
（本来の習慣ではない）

## メールの作成・送信

本文: メールで伝える内容

- 1行の長さ:  
英数字 60～70字 (日本語 30～35字)  
程度以内で改行
- 1行毎に空行を入れない
- 段落分けで空行を入れる

署名: 仮に名前 (→ 後で作ろう)

## 実習 1: まずは自分宛に送ってみよう

- 「宛先」に自分のメールアドレス
- 「本文」は適当に
- 「署名」は  
(作っていなければ) 仮に自分の名前

## 実習 2: メール受信 → 返信

- 宛先は自動で入っている  
→ 送信前にくれぐれも**確認!!**
- 件名も自動で入っている:  
“Re: ...” = 「...について」
- 元メールが “> ” で引用されている  
→ 必要部分だけ残して引用
- ★ 全体の文意を歪めた一部のみの引用で  
誇張・曲解にならぬよう注意
- ★ ビジネスでは後ろに全文を付ける習慣も

### 実習 3: 「署名」を作ってみよう

「ツール」 → 「署名管理」 → 「新規作成」

- 4 行程度以内が慣習 (大きくし過ぎない)
- 名前・所属などを入れる
- 設定名は適当に付けておく

添付ファイル: 本授業では、  
明示的に指示された場合以外は使わない

重要な注意: 届いた添付ファイルを  
**無闇に開けないように!!**

コンピュータウィルスが  
添付ファイルとして送られてくる場合が多い  
→ 開けただけで感染する場合がある

添付ファイルを送るときには、

- 本文に添付ファイルの内容を書く
- 添付ファイルだけでは送らない



本文 (プレーンテキスト) で済むものは  
本文で済ませる

- 誰でも (どんな環境でも) 確実に読める
- 容量 (ファイルの大きさ) が小さく、  
コンピュータ・ネットワークへの負荷が少ない
- 引用・検索が出来るなど使い回しが効く

さて、先程のアンケートは書けましたか？

これをどうやって集計すれば良いだろうか

こういうときこそ電子化!!

元々のデータを電子データとして作れば良い

さて、先程のアンケートは書けましたか？

これをどうやって集計すれば良いだろうか

こういうときこそ電子化!!

元々のデータを電子データとして作れば良い

元々のデータを電子データとして作れば良い

注意点:

- 後で**自動処理**・**再利用**することを念頭に
- 決まった形式 (**データフォーマット**) で作る
- 再利用の方法からデータの形式を考える

再利用し易いデータ形式

… **プレーンテキスト (plain text)**

## 課題 1:

先程のアンケートを次の形式でメールで提出

- すべて半角英数字で
- 件名 (**Subject**) は enq
- 本文に、1行1項目で、

A:0

B:1

a:5

b:3

...

の形式で書く (空白も空けない)

## 自動処理の見本をお見せしましょう

- みなさんのアンケート回答を  
集計プログラムにより瞬時に集計
- みなさんから届いたメールから  
差出人メールアドレス (**From**) を抜き出して  
全員に一斉に返信

→ 次回の授業時に